

くじら日記

太地町立博物館から



太地町立くじらの博物館では、「歯と口の健康週間」(4日〜10日)にちなみ、1日から5日間、歯と口の衛生を普及啓発するとともに、クジラの食性と歯について解説する「クジラの歯みがき」を公開しました。

「クジラの歯みがき」は2009(平成21)年から毎年開催されており、今年もハナゴンドウ、オキゴンドウ、コビレゴンドウの3種3頭の歯みがきを披露しました。クジラたちはトレーナーの合図で大きな口をガバッと開き、専用歯ブラシで歯をゴシゴシ磨かれます。歯みがきのあとは、口に大量の海水を含み、トレーナーが浴びるほどの勢いで吐き出すのが見どころの一つです。

虫歯少ないのはなぜ



「クジラの歯みがき」をさせる飼育員ら—太地町

ハナゴンドウとオキゴンドウは今年で12回目の参加で、微動だにしないお手本のような歯みがきができました。一つ

食性によって多種多様な歯

方、コビレゴンドウは今年初めて挑戦で、口の中に歯ブラシを入れられるのを嫌がるなどしましたが、臨場感はあったと思います。無事、クジラたちの虫歯がないきれいな歯をお見せすることができましたが、その秘訣は歯みがきではなく、餌の食べ方と歯の形にあります。クジラの餌の食べ方は基本的に噛むことをせず丸飲みするため、咀嚼に役立つ臼歯はなく、獲物を捕らえやすい先の尖った犬歯のような歯が並び、虫歯になりにくいといわれています。

種類によって、食性はさまざま、歯の数や大きさ、生え方も異なります。専らイカを主食とするハナゴンドウは、下顎のみに10本程度の歯が生えているだけで、上顎には歯がありません。イカを主食とするクジラの仲間は歯が少ない傾向にあるといわれています。マグロやブリなどの大型の魚から小型のイルカまでを襲って食べるオキゴンドウの歯は、上下合わせて約40本の大きな歯が並び、まるでシャチのようです。そしてイカと魚の両方を好むコビレゴンドウの歯は、大きさも数も他の2種類のちよūdō真ん中くらいです。

クジラの歯は多種多様で、歯からその食性を想像することも面白いかもしれません。皆さまも、当館のクジラのような健康な歯を目指して、歯みがきを頑張りましょう！
(太地町立くじらの博物館 副館長 稲森大樹)